

れにて見付、人にまぎれておしくみ、一物のものきれにて、覺えたるかどで大肩をうつて、そのま
ま大勢にまぎれてのいたりけり。

〔日次紀事七月十五日〕兒女踊躍洛下兒女、今日亦擊太鼓。地藏。今夜至明夜、幡枝地藏、凡愛宕

人亦祭之、燈籠。洛北岩倉花園兩村少年女子各戴大燈籠、各聚八幡社前、而男子擊太鼓、吹笛、勸踊

祈免、火難、燈籠。躍。是謂燈籠。又於岩倉觀音堂前、作踊躍、兩處共踊躍、後村人點烟火、烟火俗謂

春初製之、頭上之燈籠、踊躍女子之家々、自七月節、謂立秋、中略、街市賣大鼓、團扇、大小木刀、加伊羅

所用之具也、賣、戴、子、燈籠、臺、或又各僮、同、草、挑、燈、小、行、燈、是、皆、中、元、夜、所、點、燈、也、中、略、自、十、四、日、至、晦、日、

入、夜、大、人、小、兒、街、頭、踊、躍、踊、躍、或、又、各、僮、同、草、挑、燈、小、行、燈、是、皆、中、元、夜、所、點、燈、也、中、略、自、十、四、日、至、晦、日、

六、齋、大、鼓、或、歌、念、佛、或、說、經、解、任、意、而、請、之、

〔山城四季物語七月十五日十六日の夜、松ヶ崎、長谷、岩藏、花苑踊の事、

松ヶさきは、本涌寺といふ堂の前にて、法花の題目にふしを付、拍子に合、老若男女をし交り、孫や

子供をかたに懸てもおどるなり、此寺は、日蓮の末弟、日像の開基として、法花園純の學室なり、長

谷、岩藏、花苑にては、六字の念佛にふしを付、さまざまの花をかざり、匠をつくしたる、四角なる燈

籠を戴ておどる、いづれも肝にいりたるひとふしきはめて品ある事、都にも恥すおもしろし、此

所にては、氏神の前より踊初、其としみまかりたる亡者有家に行て、夜更までおどりありくなり、

かくばかり、列年にもよほしたる事なれば、由來なきにしもあらじなれど、たしかに知者なしと

かや、又播磨國姫路の總社といふ宮にては、十五日の晝燈籠を戴て、男ばかり、太刀刀をぬきかた

げ、けはしきさまして踊なり、是にも由來さだかならずとぞいひける、祭れる神は大己貴命なり、

〔奇遊談三下〕花園燈籠躍 洛北花園村に、毎年七月十六日の夜、里の童女、頭に二尺四方もあるべき、角なる紙ばりの燈籠をいたゞき、上に名所の山水などの形をつくりて、燈火をてらして、念佛

をとなへつゝ、踊ることなり、隣村北岩倉村にも、同日おなじさまのおどりあり、

〔一話一言十二〕池田氏筆記 一京都踊所々ニアリ、島原踊、盆中アリ、此外ニ松ヶ崎ノ題目、岩倉燈。